

## 《単位互換提供科目詳細（シラバス）》

\* 科目 No.

2917

## 科目概要記入欄

1. 開設大学	島根県立大学		開催 方法	□対面 ( )	
				■オンライン (同時・録画・資料提示)	
				□その他 ( )	
	2. 正式科目名 副題	比較文化論		配当年次	1・2・3・4
			受入学年		
学問分野	番号	11	名称	人分科学系 文化・文学	
3. 担当教員名	渡部 望				
4. 単位数	2単位	5. 開講学期	後期		
6. 開講期間 曜日・時間	2023年 10月2日(金) ~ 2024年 2月2日(金) 曜日 9:00 ~ 10:30				
7. 基礎知識の有無	・「基礎知識を必要としない科目」				
8. 募集人数	人	9. 選考方法			

10. 科目内容・授業計画	<p>本授業では、古来から学者や旅行者、探検家たちが行ってきた文化の比較を検討し、また比較文化を学問として成立させた『菊と刀』とその評価を検討し、更に現代における比較文化論の展開を検討することによって、文化を比較するという行為の意味とその影響範囲の広さを学ぶ。受講生には、グループワークや発表の機会を与え、主体的な問題として文化を比較するという行為について考察する。本授業の履修を通して、比較文化論の歴史と基本的概念を自分の言葉で説明することができる。</p> <p>「比較文化」とは、異なった風俗習慣を持つ「他者」を文化という枠組みで理解しようとし、また異文化との比較において「われわれ自身」を理解しようとするものです。「比較文化論」という学問が成立したのは比較的近年のことですが、古来、旅行者や探検家たちは「比較文化」を行ってきました。現在では海外旅行が容易になり、また身近に暮らす外国人が増えてきて、「比較文化」的言説はわれわれに親しいものとなっています。しかしそうした文化比較はどこまで正しく、相互理解に有益なのでしょうか。皮相な比較が誤解と悲劇を招いてはいないでしょうか。この講義ではそうした問題意識を射程におきながら、いくつかの代表的な「比較文化論」を検討していきます。</p> <p>授業は Teams を利用した同時双方向でおこないます。講義主体ではありますが、皆さんとの対話を重視します。皆さんには、課題に対する解答を発表する、テキストを音読する、質問をするといった授業参加をしていただき、それを「授業参加点」として評価します。皆さんには Teams の双方向機能を活用して積極的な授業参加を求めます。</p> <p>到達目標 比較文化論の歴史と基本的概念を自分の言葉で説明できるようになる。 比較文化論のもつ面白さと課題を意識して文化を考えることができる。</p> <p>第1回 イントロダクション：比較文化論とはどのような学問か 第2回 西洋人の見た日本人像 第3回 ケンペルの日本観察 第4回 『菊と刀』の日本観1 第5回 『菊と刀』の日本観2 第6回 「文化」概念の歴史 第7回 「文化」と認知 第8回 『オリエンタリズム』の比較文化批判1 第9回 『オリエンタリズム』の比較文化批判2 第10回 『われわれと他者』の比較文化論1 第11回 『われわれと他者』の比較文化論2 第12回 『逝きし世の面影』の文化論1 第13回 『逝きし世の面影』の文化論2 第14回 『文明の衝突』の文化概念 第15回 レポートの書き方</p>		
11. 試験・評価方法	<p>「出席点」はありませんが、出席日数が10回に満たない受講生は評価対象外とします。出席は「出席シート」提出によって確認します。</p> <p>学期末には4,000字程度のレポートを書いていただきます。</p> <p>成績評価は「授業参加点」（課題に対する発表、テキストの音読、質問）と、学期末レポートの評価点を合算しておこないます。</p>		
12. 別途負担費用			
13. その他特記事項	<p>授業では以下の文献を参照します。要点はプリントして配布します。なおテキストはメディアセンターに揃えてありますので、ぜひ参考にしてください。</p> <p>ケンペル『日本誌』、ベネディクト『菊と刀』、高野陽太郎『「集団主義」という錯覚』、サイド『オリエンタリズム』、トドロフ『われわれと他者』、モンテーニュ『エセー』、渡辺京二『逝きし世の面影』、ハンチントン『文明の衝突』</p>		
14. 社会人受講	科目等履修生（単位付与）として受け入れ	可	<input type="checkbox"/>
	聴講生（単位認定不要）として受け入れ	可	<input type="checkbox"/>

※コロナ禍の影響により、対面授業はオンライン（同時・録画・資料）へ変更になる場合があります。